令和３年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

（石井地区）

宇都宮市総合政策部広報広聴課

令和３年度　第６回
まちづくり懇談会《石井地区》実施結果報告書

この実施結果報告書は，まちづくり懇談会≪石井地区≫における発言の要旨をまとめたものです。

１　**開催日時**　令和３年１２月１６日（木）午後６時３０分～午後８時

２　**開催場所**　石井地域コミュニティセンター

３　**参加者数**　３１人（市出席者除く）

４　**市出席者**　市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，
東市民活動センター所長，道路建設課長，交通政策課長，
広報広聴課長

５　**懇談内容**

（１）**地域代表あいさつ**　　石井地区まちづくり推進協議会　会長

（２）**市長あいさつ**

（３）**地域代表意見**

No.	テ　ー　マ	所　管　課
1	ペタンク競技の普及について	スポーツ振興課
2	地域活動のメリット訴求について	子ども未来課 みんなでまちづくり課
3	石井地域公共交通について	交通政策課

（４）**自由討議**

No.	要　　望	所　管　課
1	ＬＲＴ導入後の石井地区の公共交通	交通政策課
2	石井地区の歴史を守ることについて	文化課 公園管理課

（５）**来賓あいさつ**

市議会議員　今野　哲也　氏

（６）**市長謝辞**

■地域代表意見１（要旨）

テーマ	ペタンク競技の普及について

ペタンクというスポーツを，石井地区は我が町のスポーツとして重視している。

地区の体育協会が早い時期からペタンク大会を実施しており，平成２０年度には自治会連合会の助成により各種団体の一つとして，石井地区ペタンク協会が設立され，更に活動が活発となった。

ペタンクは１９１０年に南フランスで生まれたボールを使った競技で，ヨーロッパを中心に普及しており，現在世界５５か国以上で行われている。日本では約１０万人のペタンカーが競技を楽しんでいると言われている。

【ペタンク競技について，実際の競技映像をスクリーン表示の上，紹介】

ペタンクは石井地区において，高齢者の健康と居場所作りでは大変な成果を上げた。愛好者約１５０名，年間６試合に参加し，２～３時間の練習を週に数回，継続して行っている。

高齢者がプレイできるスポーツであれば，どの年齢層でもできると，地区の育成会，小学校ＰＴＡに協力をいただきながら石井小学校の児童向けに大会を計画し，年に一度のペースで継続して開催している。悪天候により試合は中止となったが，令和元年の大会は小学生とその家族約９０名が参加する予定だった。

これらの活動が実を結び令和元年からは小学校のクラブ活動に，ペタンクが加わった。協会から役員等を派遣し，児童約３０名のクラブ活動の指導をしている。活動初年度であったが，１２月の地区の年忘れ大会には，クラブに所属する児童，小学校の教職員が大会に参加し，愛好者と共に楽しくペタンクで交流を深めた。さらに本年度，小学校４年生の総合学習，ペタンクの交流会のお手伝いとして，愛好者２０名が小学校を訪問した。児童が大変ペタンクに興味を示し，愛好者は熱心に指導している。懇談会が行われ，感嘆の声・笑い声，あっという間の楽しい２時間を過ごした。

高齢者から児童とペタンクには地域の様々な年代を巻き込んで交流する場を提供できるという強みがある。地区ではＰＴＡ等の同世代，班や自治会などの特定の地域・地区の老人クラブ，体協・育成会などの各種団体，それぞれの集まりの中で人の交流があるが，ペタンクはそれを飛び越えた独自の複雑多岐な交流を生み出しており，石井地区の風通しの良いコミュニケーションを後押ししている。

近年愛好者の高齢化と新規加入者が少ない事から，会員数が減少している。加えて試合会場までの交通手段がないなどの理由もあり，大会参加者も減少している。１大会の平均参加者は，昨年度令和２年度と比較し，平成２３年度の半分にまで減少してしまった。協会役員の高齢化も顕著であり，協会において問題視している。

愛好者を増やすためにも，先ずは５０代６０代の会員，将来の愛好者となる児童とその家族へのペタンクの普及を更に促進したいと考えている。昨年度より小学校において児童とその家族を対象にペタンク大会委員会を実施する予定だったが，コロナの影響により体験会は中止となった。またＳＮＳ発信の実施も今は控えている。

様々な活動が中断せざるを得ない状況となっている。ピンチはチャンスという事でオリンピックのボッチャの元気にあやかり，何とかペタンクをアピールしていきたいと考えている。

石井地区におけるペタンクによる交流を更に盛んにするため,現在課題と考えている「小学生の家族など若い世代へのペタンクの更なる周知」や「５０代６０代への会員勧誘」について，良い方策があれば意見を伺いたい。また，ペタンクの発展，石井地区の愛好者の増加のためにも，全市的にもペタンクの普及を進めていきたいと考えているので，それらも意見を伺いたい。

回　答	所管課：スポーツ振興課

【市長】

石井地区のペタンクは大変有名で，盛んであり，特に水辺の楽校の活用については，最初にペタンク大会を開催していただき，十分に活用していただいている。

また，高齢化社会においては，やはりどんどん外出をして歩いていただくことで，健康寿命が延び，当然のことながら医療費が削減していくので，ペタンクなどの毎日でもやれる軽スポーツをこれからも続けていただきたいと思う。

そのような中，石井地区における若い世代への更なる周知，また５０代６０代への会員勧誘については，幅広い世代の会員が在籍する石井地区の地域スポーツクラブ，クラブサンクにおいて，活動内容の１つとしてペタンクの導入を検討してきた経緯があるので，今後，石井地区ペタンク協会と連携したペタンク教室の開催等に向けて，市としても積極的に支援し，石井地区ペタンク協会の会員勧誘に繋がるように取り組んでいきたい。

また，全市的なペタンクの普及については，まず市民の皆さんに競技自体を知ってもらう必要があり，そのために石井地区ペタンク協会のご協力をいただき，ペタンクのわかりやすい動画等を作成し，YouTube 等のＳＮＳへの投稿や市内の学校・地域への配布などのＰＲを行っていく。

また，市内の学校や地域が主催する大会の開催や出前講座等の実施の意向があれば，本市としても石井地区ペタンク協会と連携が図れるようマッチング支援などをさせていただき，実際にペタンクを体験できる機会の創出のお手伝いをさせていただきたいと思う。

また，各地域のスポーツ推進委員で構成された委員会が主催するペタンクの研修会を通じて，各地域でスポーツ推進委員によるペタンクの体験会等が開催できるよう支援を行うとともに，同会主催の「ニュースポーツ大会」や本市が関わるイベント等においても，石井地区ペタンク協会からの希望があれば，ペタンクの体験ブース等が新たに出展できるよう，働きかけを行っていく。

また，来年秋にはいちご一会とちぎ国体がある。ビッグスポーツイベントを契機としてペタンクのみならず，市民のスポーツの関心が高まると思うので，宇都宮が目指している「ひとり１スポーツ」の実現に取り組んでいく。

そして，平出の車両基地にあたる柳田街道と向田線，これら駅東側から新４号東側と，それらが交わる場所の角がＬＲＴ車両基地になる。そして,この場所が平出の電停となり，この上に市として「東部総合公園（仮称）」を整備していく。ここに，ニュースポーツやＢＭＸ，スケートボードなどができるようエリアを整備するとともに，ペタンクなどのスポ

ーツができるエリアも作っていくため，市内，県内からのペタンク愛好者が，大会などもできる場所になると思う。これらのことから，石井地区の皆さんには率先して使っていただき，皆でペタンクを盛り上げていきたい。

■地域代表意見２（要旨）

テーマ	地域活動のメリット訴求について

先日，育成会の倉庫を掃除した際，ソフトボールで使うベースや古いボール等がたくさん出てきた。その中にトーナメント表があり，４０数チームの子供達がチームを作り，ソフトボール大会を２週間にわけてやっていた資料が出てきた。今から４０年近く前の話である。当時は育成会の活動・子供会の活動は,「地域での娯楽であり，次世代を支える社会として，作られてきた時代があった」と改めて感じた。しかし，今（石井地区には）２０自治会がある中，育成会が組織されているのは１８自治会である。２つの自治会においては，既に育成会・子供会の組織がない状況である。しかし，そこに子供達がいないわけではない。子供達はいるが，育成会の組織ができない理由として，育成会は自治会に加入することが条件になってくるため，自治会に加入していない所が比較的多い時代のため，組織が難しいのである。「自治会なんか別に必要ないよ」という世の中の風潮が，宇都宮でも少しずつ出てきているのではと実感している。

１０年間，我々育成会活動においては，特段何も変っていない。ルーティンで毎年同じように，例えば宿泊体験学習に行く，チャレンジランキング大会をやるなどルーティン化している。この時期これをやるという，ある程度決まりきった中での活動である。つまり我々の活動自体,全然中身が変わっていないのである。今の時代にマッチしていないため,育成会活動そのものに魅力を感じられないことが，一つ大きな要因になっていると思う。

育成会の加入と自治会加入の促進を，どのように行っていけばよいか大きな課題がある中，育成会や自治会の期待・存在意義が問われている。行政側として育成会や自治会に何を期待しているのかをお尋ねしたい。

また，そのような中，宇都宮市内，他県等色々な所で活動されている好事例があれば,「このような活動で活性化していますよ」ということを教えてほしい。

回　答	所管課： 子ども未来課，みんなでまちづくり課

【市長】

青少年育成会や自治会への期待・存在意義については，当たり前のようにお互いが支え合っていくまちづくりにあり，それが希薄化してしまうと，普段の生活の中において，隣の人の顔がわからない，どんな人が住んでいるかわからない，何かあったときに協力する事ができない,あるいは協力を遠慮してしまう,という事態になり,特に自然災害時には,横の連携による助け合いがなく，大変な事態になるため，自治会は私達にとってなくてはならない存在である。

次に，青少年育成会運営の好事例については，例えば，地区内の中高生によるリーダースクラブを組織している青少年育成会があり，中高生が子供会や自治会などの地域の他の

団体による宿泊体験や文化祭・子どもの家などの行事へ参加する機会の創出を図ったり，また自治会と小学校が連携して野菜作り体験を提供するちびっこ農園，地元の小川の生態系や生き物への関心を深めたり，郷土愛の醸成を図る地区の生き物調査などに取り組み，世代間交流の促進や，まちづくりに参加する意識の醸成を図る特徴的な事例もあるので，ぜひ参考にしてほしい。また，石井地区においても，ペタンク協会や自治会・小学校等と連携して，ジュニア大会の開催をし，世代間交流の機会の提供や，育成会が小学校と連携して宝探し大会を開催し，コロナの状況下においても子供達との交流等を図っている。これらの活動も他の地区から見ると大変珍しい活動であり，大きな好事例になる。これを逆に石井地区の例として他の地区の人達にも紹介をしていきたい。

また，自治会自らが地域の課題を発見して解決するための活動や，誰もが加入したいと思える魅力の創出に向けた活動を支援するため，今年度から「魅力ある自治会づくり支援事業補助金」を創設した。この補助を利用し，活動の担い手確保や負担軽減に繋がる「集合住宅等への自治会加入促進」や「スマートフォンを活用した事務連絡や回覧版等のＩＣＴ化」等のモデル事業に取り組んでいる地区で得られた成果や，自治会活動表彰を受賞した魅力ある自治会活動を取りまとめた「自治会活動事例集」を，石井地区をはじめ，全市に広く情報提供していくので，参考にしていただきたい。

また，自治会への加入にメリットを感じてもらえるよう，自治会連合会で自治会の会員になった優待制度,「宮パス」を作った。この宮パスについては，自治会の会員であるという証であり，これは１世帯に１枚もらえる。これをお店に持参すると，優待が受けられるものである。１１月下旬に開催したある地域イベントにおいて,「この宮パスを提示した場合，飲食物が割引になる」という制度をやってもらったところ，購入された市民３００人のうち，７割に当たる２２３人の方にご利用いただいた。このような取組を少しずつ積み重ねていき，自治会に入らないともったいないという雰囲気を作っていきたいと思う。

■地域代表意見３（要旨）

テーマ	石井地域公共交通について

石井地区では，去年の４月１日から地域内交通を走らせている。新４号の西側に定時定路，東側にデマンドカー，この２つである。１つの組織で２つ行っているのは，石井地区が初めてである。

２つについて，１つ目の定時定路は「ぐるっと石井号」である。２つ目のデマンドカーのは「スマイル石井号」である。この名前は，地元の皆さんや小学校の生徒に応募してもらった。応募方法は，定時定路が６４人中６９の作品があった。また，デマンドについては，５０人中５０作品があった。その結果，定時定路が「ぐるっと石井号」，デマンドは「スマイル石井号」という名前を採用したが，採用されたのは２つとも小学生だった。「ぐるっと石井号」は当時小学校１年生であった。

【地域内交通を検討するにあたり，当時の検討委員会設置経緯や地区内で行ったアンケート結果，稼働後の利用者の声をパワーポイント資料（スクリーン表示）により紹介】

費用については，どちらもタクシー会社に委託している。委託料として支払い，定時定路については，年間約８２５万円，デマンドについては，約６１１万円かかっている。そのうち３分の２は市から補助されているが，３分の１は地元負担となっている。運賃は定時定路が７６万円であり，内訳としては，事業協賛金や各家庭から３００円ずつ支出している。それらを含め運営しているが，定時定路は３分の１に届きそうなところである。

ところが，デマンドはそこまでいかない状況であり，８４万円の赤字である。その他運行費用だけでなく，これを動かすための事務費や資料を作る費用，印刷等にお金が掛かっており，それらは全然賄えていない。そのような問題がある。

今後の課題として，費用が足りない。協賛金については，いつまでも負担してらえると考えることはできず，非常に収入が不確定なものであり，運賃だけでは賄えない事業である。また，事務費として年間８万円しか認められていない。そのような中，デマンドと定時定路を一緒に行っているため，他の地区に比べ事務量が多い。この点もぜひ考慮して対応してもらいたい。

市の補助金について，３分の１や３分の２という費用面は，３分の１を我々の負担として考えているが,初めからできない,皆が乗ってもそれをカバーできない割合とするのは,おかしいと思う。運営の継続性を考えた場合，費用が全然足りない。それらを含め，費用や組織の補助割合の考え方を伺いたい。

回　答	所管課：交通政策課

【市長】

地域内交通に関しては，郊外部が全て整ったが，市街地の中で最初にやっていただいたのが石井地区である。ご苦労も相当あったかと思うが，感謝申し上げる。

まず，人件費補助の見直しについては，地域負担の軽減や持続的な運行を図るため，平成２５年度から全地区を対象に，地域の要望や他のまちづくり団体への支援とのバランスを踏まえ，２０万円を限度として「地域内交通運営経費補助金」を導入した。そのうち，人件費に対しては上限８万円の補助を行っている。

また，石井地区は定時定路とデマンド，この両運行方式を併用しているため，運行にかかる経費も多いことから，バス停の設置など，運行開始に必要な経費に対する補助額を通常の倍の１００万円に設定している。異なる運行方式の導入により，路線ごとの運行実績の集計や，利用促進にかかる周知チラシの作成などが必要となるなど，他地区と比較し事務局の事務量が多いことから，まずは利用実績の分析や運営に必要となる資料作成に関する支援などが行えるよう，東市民活動センターとともに行政の支援体制の更なる強化を図っていくとともに，ＩＣＴを活用した予約配車システムの全市的な展開を進める中で，毎日の利用者の状況に係る確認業務などの自動化を図るなど，更なる地域負担の軽減を図っていく。

次に，運行経費の補助見直しについては,「我らの公共交通」という意識を持ってもらうため，地域の皆さんに最初から関わっていただき，料金や運行システム等様々なものを地域の人達に決めてもらっている。その上で，目標として３分の１を運行経費として維持し

てもらい，３分の２は行政とし，これを一つの目安としている。仮に目標達成ができない場合においても，市が責任を持ってこれを維持していくので，一つの目安として取り組んでいただき,「我らの公共交通として自分達で使わなくては」という気持ちを保っていただきたい。

また,他の地区においても,続々と石井地区に見習えという動きが数地区で進んでいる。素晴らしい動きだが，地域内交通やバス，ＬＲＴ，電車などを使わないと公共交通は無くなってしまう。そのため，ぜひ地域の皆様が愛着を持って少しでも利用してほしい。その結果，どうしても運営が大変なときには，行政が責任を持つので，安心していただきたいと思う。

■自由討議（要旨）

発 言 １	ＬＲＴ導入後の石井地区の公共交通

令和５年３月開始に向けて整備を進めているＬＲＴについて，石井地区で利用する駅はほとんどベルモール前が多いと思われる。石井地区は東西南北に広い面積があり，２０自治会で構成されている。当初ＬＲＴ路線から離れた地域住民は，地域内交通導入前はあまり関心がない人が多かった。しかし，石井地区で昨年度からデマンド・定時定路の地域内交通が走るようになり，９時台から１８時台まで利用できると，高齢者はもちろん，皆が喜んでいる。またその時間帯については，ＬＲＴとの接続が便利になると思われる。

ＬＲＴ導入によって大量輸送することで，市内のバス路線を郊外に振り分け，宇都宮全体の公共交通の再編を行うということを以前聞いたことがある。石井地区以外にもバス路線のない地域があるので，ぜひ検討を願いたい。

特に朝夕の通勤・通学の時間帯の交通手段がない地域が多々ある。石井地区もそうであり，石井団地には，東野バスの循環バスが走っているが，朝の便数が減る，時間帯が遅くなる，通勤・通学に利用できないという不満がある。

また，現在走っているバスについても，今までは駅西経由東武駅行きであったが，今は駅東口や駅構内を渡り，また乗り換えて中心市街地に行くことになり，不便になったという声もある。今後石井地区全体の公共交通について，利便性向上を図る為にどのように考えているのか。特に地域内交通が走っていない朝の時間，また夜の時間，それらのバス路線を今後どのように考えているのか，教えてほしい。

回　答	所管課： 交通政策課

【市長】

ネットワーク型コンパクトシティの機能は，公共交通のネットワークであるため，地域内交通・バスあるいはＬＲＴなどを活用し，どこからでも移動ができるまちをつくっていくとともに，それらを利用しやすいように上限運賃制度を導入した。これは上限４００円でバスの片道が乗れる制度であり，今後５００円で乗り継ぎ，街中まで行けるようにし，最終的にはＬＲＴや地域内交通・バスなどを使い，それらを使った上で５００円以内で移動できる交通運賃体系を作ることを予定している。

そのような中，地域内交通が運行していない時間帯のバス路線について，ネットワーク型コンパクトシティの形成の視点から，まずは需要の多い国道１２３号線や県道宇都宮真岡線を運行する幹線バス路線の維持・充実を図るとともに，これらの幹線バス路線が更に利用しやすくなるよう，バス停付近への駐輪場整備などにも取り組んでいく。

また,卸団地循環線については,新型コロナの感染拡大に伴い利用者数が減少したため,令和２年１０月にバス事業者によって減便された。市としては，今後のウィズコロナにおける利用者数の回復状況を見極めながら，まずは令和２年９月までの運行頻度に戻せるよう，バス事業者と協議をしていく。

また，駅西側の大通り方面に向かう利用者の乗り換え負担の軽減のため，先程の乗り継ぎ割引などの運賃制度の導入を図っていきたい。

さらに，地域内交通「ぐるっと石井号」については，日中の時間帯における卸団地循環線の意向頻度が低いことから導入した経緯がある。今般の状況を踏まえ，朝方の運行開始時刻の前倒しや夕方の運行時間の延長などの意向があれば，地域の運営組織の皆さんと共に検討していく。

こうしたバス路線を将来にわたって維持・充実していくためにも，多くの方に利用して頂けるようにお願いしたい。利用しないと公共交通は無くなってしまうため，よろしくお願いする。

発 言 ２ 石井地区の歴史を守ることについて

石井地区の歴史を守ることについての質問である。

この石井地区には久部街道がある。この久部街道は，江戸時代から明治１８年の鉄道，宇都宮に敷設させるまでの間，いわゆる宇都宮と水戸を結ぶ（宇都宮城と水戸城を結ぶ)，水戸本街道であった。ここから今の久部街道，水戸本街道を東へ進むと鬼怒川がある。その鬼怒川の下川岸に川の港，宇都宮城外港河岸という河岸があった。江戸時代から明治時代にかけて,宇都宮の川からの玄関口であった。また,大島という地名が石井地区にあり,明治４年，世界遺産の群馬県富岡の製紙工場，生糸工場ができる１年前に，富岡に勝るとも劣らない凄い生糸工場が大島地区にあった。それに関連し，質問をする。

一つ目，史跡石井河岸鬼怒川河川公園の整備と記念碑の建立について，宇都宮鬼怒川で唯一水制かっけしが残る下川岸石井河岸跡に,「史跡宇都宮城外港河岸石井河岸ここにあり」の碑を立て，かっけし跡並びに石井桜堤鬼怒川土手下を「史跡石井河岸鬼怒川河川公園」として整備してほしい。

また，石井河岸は，下川岸の東京，江戸からの玄関口であり，宇都宮から江戸の川の玄関口であった。現在大河ドラマ「青天を衝け」で放映されたアメリカ第１８代大統領グラントが，今の久部街道（昔の水戸本街道）を明治１２年に通り，鬼怒川の下川岸に来た。そして，舟で渡り，大島の生糸工場に行った。大河ドラマ「青天を衝け」で放映されたアメリカ第１８代大統領グラントが明治１２年７月，対岸大島の生糸工場である石井製糸場大嶋商舎に渡った渡河点でもあるため,「史跡宇都宮城外港河岸ここにありき」に並べ,「アメリカ第１８代大統領渡河河岸の碑」を下川岸の渡河点に残してほしい。

二つ目，石井製糸所大嶋商舎記念碑の建立について，今もし残っていれば世界遺産にな

ったであろう生糸工場があり，かつアメリカの大統領グラントがこの製糸工場大嶋商舎に来た。その富岡製糸場に勝るとも劣らない生糸工場，石井製糸場大嶋商舎があったその一角に，明治日本を牽引した近代的生糸工場「石井製糸場・大嶋商舎ここにありき」という碑を立てて欲しい。

三つ目，古墳時代，今私達がいるこの場所は鬼怒川の河原であった。このすぐ西側が久部の台地であり，そして東には鐺山が高台になっている。その間が鬼怒川であった。古墳時代には，この高台に三日月神社から根本まで古墳がずっと並んでいた。この久部台古墳を整備し，多くの市民が古墳時代に思いを馳せる場所を作ってほしい。

回　答	所管課： 文化課，公園管理課

【市長】

記念碑の設置について，本市においては，文化財保護法により，国指定文化財に対し国指定文化財であることを示す標識を設置しているが，記念碑等の設置は行っていない。

また，久部台古墳群の整備については，市内に笹塚古墳を始め４００基近い古墳が確認されている。久部台古墳群は前方後円墳などが良好な状態で現存しているところであり，文化財保護においては，指定文化財の有無にかかわらず，所有者が維持管理を行い，行政は助言や支援を行うことが基本的な考えである。久部台古墳群については個人所有地であるので，市として整備をすることはできないが，地域の歴史文化資源を認定し活動費用等に対して，地域団体に支援する「みや遺産」という制度を創った。

この制度によって細谷・上戸祭地域の団体が申請した戸祭大塚古墳・大ジノ古墳群が昨年度認定され，今年度，団体の活動費の補助や案内看板設置の補助により，支援を行っている事例がある。要望の記念碑の設置や古墳群の整備についても活用できるので，詳細な内容については一度文化課に相談いただきたい。

次に，史跡石井河岸鬼怒川河川公園の整備については，整備要望地が鳥獣保護区に指定されている。本市の「鬼怒川緑地運動公園基本計画」においても，現在の自然環境を維持していく保全ゾーンに位置付けている。また，豪雨時等の自然災害の場合には，安全確保の視点から，現状の河道を維持していくため，整備は難しい。